

テングザル (*Nasalis larvatus*) における EBV 感受性の確認

Susceptibility of Proboscis monkeys to Epstein-Barr virus

○植田 美弥<sup>1</sup>, 東野 晃典<sup>1</sup>, 横田 綾<sup>1</sup>, 松谷 美絵<sup>1</sup>, 田宝 玄人<sup>2</sup>, 石田 貴文<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>横浜市立よこはま動物園, <sup>2</sup>東京大学)

○Miya Ueda<sup>1</sup>, Akinori Azumao<sup>1</sup>, Aya Yokota<sup>1</sup>, Mie Matsutani<sup>1</sup>, Gento Tadakara<sup>2</sup>, Takafumi Ishida<sup>2</sup>, (<sup>1</sup>Yokohama Zoological Gardens, <sup>2</sup>Tokyo Univ.)

ヒトヘルペスウイルスの1つ, Epstein-Barr ウイルス (EBV) (HHV4) は, ヒトを自然宿主とするが, 他の霊長類にも感染性を示し, 類人猿・新世界ザルの B 細胞に感染し細胞を不死化することが以前から知られていた。一方 1980 年代, EBV 感受性は旧世界ザルでも, コロブス亜科のコロブス属とリーフモンキー属で確認され, 感受性の有無と宿主の系統関係に興味を持たれている。しかし, コロブス亜科のシシバナザル・テングザル属に関しては報告がなされていなかった。

今回, テングザルの EBV 感受性を検討するため, よこはま動物園にて飼育中の 4 頭 (♂2 頭, ♀2 頭) について, 得られた末梢リンパ球に EBV を *in vitro* で作用させた。感作後リンパ球のプラスト化が見られ, 1 ヶ月程で安定増殖状態に移行した。増殖細胞中に EBV 関連タンパクの発現, ウイルスゲノムの存在を認め, テングザルの EBV 感受性を確認した。

テングザルが EBV 感受性を示したことは, EBV 受容体である CD21 の受容体モチーフがコロブス亜科で普遍的に保存されていることを示唆した。

※第 16 回日本野生動物医学会 (2010 年 9 月 1 日~4 日) にて口頭発表